阪神・淡路大震災 28 年～あの日を知らない君たちへ～

〇阪神淡路大震災 28 年

1995 年1月 17 日午前 5 時 46 分に発生した阪神淡路大震災から、28 年を迎えました。6,434 名の犠牲者の皆さまに哀悼の意を表するとともに、記憶・教訓を継承することが大切と考え、昨年度からこの追悼行事を実施しています。

本日、ペットボトルの手作りとうろうに明かりをともし、1．17と中庭に作ってみました。 神戸の東遊園地では、1.17 つなぐと竹灯籠でかたちどり、あの日を思い、失った家族を思い、涙を流すひとの姿が今もあります。

〇継承の難しさ

しかしながら、震災を経験していない教員や生徒が増えていく中、震災から得た経験や教訓を風化させることなく、いかに次の世代に継承していくか難しい状況となっている現実があります。現在は、災害に対する備えをしていない人の割合が、各世代で 50%を超え、大切な命を守る、自分で命を守る、大切な家族の命を守ることへの危惧があります。

〇あの日

の、突然の大きな地震、余震の多さ、家はくずれ、高速道路は倒れ、道路は陥没し、火事の悲惨さ、圧死する人、炎の中助けることができなかった人、水はでない、電気もない、避難所となった小学校では人があふれ、寒さの中で、自分たちの日常がなくなったこと、また、自然に対する無力さに打ちひしがれました。そして、突然の災害によって、命を失なうことの悲しさ、その様々な思いは、今も消えることはありません。

〇きずな・支えあう心

そんな中、阪神淡路大震災後、全国各地から延べ 180 万人が兵庫県に駆けつけ、被災地復興に貢献してくれました。 災害時には被災地に駆けつけるボランティアの姿が定着しました。 このことから、この年は「ボランティア元年」と呼ばれています。様々な支援や応援があって、復興を遂げてきました。

〇次世代へ

震災で培われた「きずな・支えあう心」「やさしさ・思いやり」の大切さを次世代へ語り継ぐこと、そして、大切な命を守る防災・減災への意識を高めること。

これは、私たちが君たちに伝えなければならないことだと思っています。

災害によって被る被害を最小限におさえるために、あらかじめ行う取り組みを減災といいます。自然災害の発生を防ぐことは難しいため、災害は起きるという前提のもと被害をいかに軽減させるかを目的とするのが、減災です。

例えば、災害を見据えてシミュレーションをする。災害時の家族との連絡の取り方を話し合う。避難所を確認する。ハザードマップや自宅の標高を調べておく。災害後 72 時間分の水、非常食等を用意しておく。等減災を実行してください。

〇支援にこたえる。支えあうこと。

この 10 年間においても、熊本地震、大阪北部地震、北海道胆振地震、倉敷豪雨災害など多くの災害が発生しています。コロナもそうかもしれません。これからも、いつおこるかわからないからこそ備えて、大切な命を守る。ぜひ、取り組んでください。

また、阪神淡路大震災を経験しているからこそ、私たちは海外や日本全国で発生する災害に支援を実施してきました。

〇先導してきた震災学校支援チーム

熊本地震では、県立学校 204 校の支援や、小中学校の避難所運営の支援、災害後の心のケアに常駐したり等、災害が発生するたびに支援に駆け付ける教員の集団があります。震災・学校支援チームEARTHです。中国、フィリピン、トルコにも支援を展開してきました。

被災地では、朝 7 時に出発して、夜 11 時に帰ってくる。その後もミーティングを繰り返し、出発する。そのまま、避難所に滞在する隊員もいる。こんなハードなことがなぜできるのか考えてみてください。それは、多くの人に支えられてきたこと、そして、震災を生き抜いてきた知識を生かして、兵庫県のようにならないようにとの思いからです。

様々な被災地を支援してきた小中高校のプロフェショナルでスーパーな先生方が、錦城高校の生徒のためにきてくれることになっています。ぜひ、何か感じて学びとってくれる機会となることを祈っています。

〇最後に

災害は、いつおこるかわからない、でも、その確率は確実に高くなっています。

どうか、君たちの大切な命、家族の大切な命が守れる努力をしてください。ぜひ、YOUTUBEでも、ニュースでもよいので、阪神淡路大震災などの災害について調べて知ってください。とことん知ってみる事、調べてみる事、挑戦してみる事は、みんなの行動力や探究する力や、考える力が育つ原動力となり、様々なことに対応する力に継続されます。

それと同時に、きずな、支えあう心、やさしさ、思いやりという大切なキーワードも実践できる人、錦城生であってほしいと願っています。自主的なランティア活動ができる集団でもあってほしいです。

話を聞いて自分のものにして、行動できる。そんな君たちに期待します。

最後に6，434名の御霊に哀悼の意を表し、阪神淡路大震災 28 年追悼行事の言葉といたします。

令和4年1月 17 日 県立錦城高等学校

校長 米 谷　繁